ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	BP.7	調査位置				北　緯	36 ° 28 ' 2.6500 "
発注機関	栃木県　安足土木事務所		調査期間	2010-08-13 ～ 2010-08-19		東　経	139 ° 30 ' 31.4000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	221.24 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 35.00 °
総掘進長	13.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	220.94	0.30	0.30		表土 (SF)	黒		軟らかい	非常に軟質な有機質火山灰土である。
1	219.79	1.15	1.45		ローム (Lm)	暗茶褐			粘土質が強く、軟らかい。稀にφ2～20mmの角礫を混入する。
2					風化岩（砂岩）(WR)	茶灰			メタルクラウンビットで掘進可能。
3						暗茶灰			風化・変質が岩体内部にまで及んでおり、原岩組織を殆ど残さない。 GL-3.0～3.8m間に「未～弱」変質の頁岩片を混入する。
4									
5									コアは砂質粘土状～粘土質砂状で採取される。部分的に岩片を認めるが、指で容易に崩せるほど脆弱化している。
6						褐灰			GL-7.0m以深に局所的な弱変質部分を認める。
7									GL-9.3m付近より、幾分かの硬度上昇を感じる。
8									岩盤等級区分は「D級」である。
9									
10	211.29	8.50	9.95		砂岩 (S)	淡褐灰			GL-10m付近、網状亀裂の発達により礫状コアを主体とする。以深は長さ5～15cmの片状～棒状コアを概ねとするが、弱風化による脱色が見られ、コア自体もやや軟質化を伴う。
11	210.24	1.05	11.00		風化岩（砂岩）(WR)	褐灰			風化・変質が強く、コアは礫混り粘土質砂状を呈す。
	209.74	0.50	11.50		砂岩 (S)	淡褐灰			ダイヤモンドビットでの掘進が不可欠となる。コアは柱状形で採取されるも、斜状亀裂が多く、コアパック開放後に5～10cmの片状～棒状に分離し、又、網目状亀裂の発達部では礫状コアが主形となる。岩片自体は弱風化による脱色や割れ目沿いの酸化痕が伴うものの、硬度劣化は見られない。
12									
13	208.21	1.53	13.03						

地層岩体区分

孔内水位 (m)／測定月日：08/20 11.35

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15		1	1	2/30	2
1.45		17	13		
2.15	7	12	8	27/30	27
2.45					
3.15	4	5	9	18/30	18
3.45					
4.15	7	8	9	24/30	24
4.45					
5.15	5	5	6	16/30	16
5.45					
6.15	7	8	10	25/30	25
6.45					
7.15	21	29	5	50/15	>50
7.30					
8.15	5	6	8	19/30	19
8.45					
9.15	9	25	16	50/25	>50
9.40			5		
10.15	28	22	3	50/13	>50
10.28					
11.15	2	6	10	18/30	18
11.45	50			50/7	
12.00	7				>50
12.07					
13.00	50			50/3	>50
13.03	3				

N 値 0 10 20 30 40 50

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						08/13
						08/18
						08/19